

CLAIR REPORT No. 416

シンガポールの英語教育について

Clair Report No.416 (May 7, 2015)

(一財)自治体国際化協会 シンガポール事務所



一般財団法人

自治体国際化協会

「CLAIR REPORT」の発刊について

当協会では、調査事業の一環として、海外各地域の地方行財政事情、開発事例等、様々な領域にわたる海外の情報を分野別にまとめた調査誌「CLAIR REPORT」シリーズを刊行しております。

このシリーズは、地方自治行政の参考に資するため、関係の方々に地方行財政に係わる様々な海外の情報を紹介することを目的としております。

内容につきましては、今後とも一層の改善を重ねてまいりたいと存じますので、御叱責を賜れば幸いに存じます。

本誌からの無断転載はご遠慮ください。

問い合わせ先

〒102-0083 東京都千代田区麹町 1-7 相互半蔵門ビル

(一財)自治体国際化協会 総務部 企画調査課

TEL: 03-5213-1722

FAX: 03-5213-1741

E-Mail: webmaster@clair.or.jp

はじめに

世界ではグローバル化が急速に進展しており、英語によるコミュニケーション能力が様々な場面で必要とされ、今まで以上に日本人の能力向上が課題となっている。文部科学省では、英語教育の充実を図るため、小学校中学年から開始、小学校高学年での英語の教科化、中学校段階から授業を英語で行うことを基本とする方向性を示している。

国民の大部分が移民によって構成され、資源も土地もない都市国家であったシンガポールは外資誘致や民族融和のため英語中心の言語政策を展開した。シンガポールの多くの人々にとって英語は母語ではなかったが、国家的施策として英語教育を推進してきた結果、現在では、英語は日常生活のあらゆる場面で使用される共通言語としての役割を担うまでになっている。

このようにシンガポールと日本では日常生活での英語使用環境が大きく異なっているという背景があり、言語教育の方法について単純な比較は難しい部分もある。しかし、今後より実践的な英語能力を高める教育方針を打ち出した日本にとって、コミュニケーションの手段としての英語が、多様な民族・言語環境を有するシンガポールでどのように教育されているのかについては大変興味深いところである。

シンガポールにおける英語教育について関心を持たれる方にとって本書が何らかの参考となるとともに、また、お気づきの点については御指導賜れば幸いである。

(一財) 自治体国際化協会シンガポール事務所長

目 次

概要	1
第 1 章 教育制度の概要	
第 1 節 シンガポールの教育の特徴	2
第 2 節 教育制度	2
第 3 節 教育体系	5
第 2 章 シンガポールの英語教育	
第 1 節 英語教育水準	7
第 2 節 英語教育実施状況	8
第 3 章 英語教育シラバス	
第 1 節 英語教育シラバスの特徴	15
第 2 節 英語教育シラバスの内容	15
第 4 章 学校教育におけるシンガポールの英語教材	24
第 1 節 教育省の認可を得た教科書	24
第 2 節 童話や寓話等の教材	29
第 3 節 教師が作成する教材	30
第 5 章 英語教員養成制度、英語教員研修制度	
第 1 節 教員養成機関としての国立教育研究所	31
第 2 節 英語教員研修制度	32
おわりに	36

概要

シンガポールの発展は、徹底的な能力主義に基づき有能な人材を育成するその教育システムに負うところが大きいと言われるが、政府は常に教育政策を重視し、国の重要な柱と位置づけてきた。

シンガポール政府は 1965 年のマレーシア連邦からの分離独立当初から英語の重要性を訴え続け、1970 年代には英語をベースとする 2 言語教育を開始するなど、英語を中心とする言語政策を推進している。

建国から今年で 50 年を迎えるシンガポールは、短期間で目覚ましい経済発展を遂げ、2013 年の 1 人当たり GDP は約 55,182 米ドル（アジア 1 位・同年の日本の 1 人当たり GDP は 38,467 米ドル）と、いまやアジアでナンバーワンの経済大国となっている。

この要因の一つとして挙げられるのが、ビジネスの世界で標準語とされる英語を国家の中心的な言語として位置づけた教育を推進してきたことがあげられる。英語理解力の高い国民の存在が、多くの外資系企業のシンガポール進出要因の一つとなっている。

シンガポールの英語教育の特徴は、英語学習の目的を先進国の資本や科学技術を取り入れて経済発展を図ると共に国際競争力の優位性を確保することと明確にした上で、目標実現に向けて学習内容、教材作り、教員養成等の英語教育を一体的に推進している点にある。

本稿では、シンガポールの教育制度の概要を紹介するとともに、英語教育がどのように実施されているかについて説明する。

第 1 章では、今日のシンガポールの経済的繁栄の原動力である教育制度について説明を行う。

第 2 章で諸外国との比較から見たシンガポールの英語教育水準を概観するとともに、シンガポールがどのような教育目標に基づき教育を推進しているのか、その教育実施状況について説明を行う。

第 3 章では、英語教育の指針であるシラバスで定める指導方針、指導内容、指導方法、教師の役割等について説明を行う。

第 4 章では、英語教育の現場で実際に使用されている教科書について説明する。

第 5 章では、英語教育において重要な役割を担う英語教員養成制度について説明する。

第1章 教育制度の概要

シンガポールの経済的な成功は、将来を担う有能な人材を積極的に発掘し、育成するシステムに負うところが大きいと言われている。本章ではそのようなシンガポールの教育制度について概観する。

第1節 シンガポールの教育の特徴

シンガポールの教育の特徴の要素として、リークアンユー著「My Lifelong Challenge Singapore's Bilingual Journey」、「THE WIT & WISDOM OF Lee Kuan Yew」によると、2言語主義、能力主義があげられる。

(1) 2言語教育

シンガポールでは初等教育の1年生から授業が英語で行われている。さらにシンガポールは華人系、マレー系、インド系及びその他の複数民族で構成される多民族国家であることから、それぞれの民族の文化的な背景やアイデンティティを尊重するため、英語と同時にそれぞれの母語も学んでいる。

この2言語教育は、①国際ビジネス活動においてビジネス共通語である英語の習得が必要であったこと、②国民が社会や家族の調和を重視するアジア的価値観を学び、アジア人としてのアイデンティティを保つために各民族母語の習得が必要であったため、1966年から実施されている。

(2) 能力に応じた教育

初等学校から始まる各段階で、生徒の能力に応じて選別していくための試験が行われる。

まず、初等教育4年生の終わりに、学校が独自に定める基準によるテストが行われ、オリエンテーション段階（初等教育5～6年生）に向けた振り分けが行われる。その後、初等学校卒業試験（PSLE: Primary School Leaving Examination）、中等学校卒業時のシンガポール・ケンブリッジ「普通」教育認定試験（GCE-O: Singapore Cambridge General Certificate of Education, Ordinary Level）が行われ、これらの成績によって、以後の進路が決められる。

PSLEは1週間にわたり口頭試験（英語及び母語）、リスニング試験（英語及び母語）、筆記試験（英語・母語・算数・理科の全教科）が行われる。試験科目にあるとおり、シンガポールでは英語、母語、算数、理科が重要視されている。

また、GCE-O試験時において、生徒は6試験科目から11試験科目を選択することが可能だが、英語、母語、基礎数学は必須となっている。このように英語は母語、数学とともに、特に重要な教科として位置づけられている。

第2節 教育制度

(1) シンガポールの教育体系における一般的な進路

シンガポールの教育体系における一般的な進路は、初等教育（Primary School、6年

間)、中等教育 (Secondary School、4～5年間)、大学準備教育 (Junior College は2年間、Centralised Institute は3年間) から大学 (University、3～4年間) というコースと、初等教育、中等教育の後、専門教育 (Polytechnic、3年間) または、技能教育研修所 (Institute of Technical Education、1～2年間) というコースである。

なお、現在、初等学校の入学生徒数から見た場合、大学へ約28%、ポリテクニクへ約46%、技能教育学院へ約21%が進学している。シンガポールでは、英語は公用語であると同時に共通語として初等教育の1年生から指導されており、英語の基礎力を身に付ける初等教育・中等教育の学習過程においては、教育省がシラバスを策定し学習内容を詳細に規定されている。中等教育以降の大学準備教育、専門教育、大学教育においても英語教育は行われているが、基礎能力習得後に、より高度な英語教育を行う段階にあるため、教育省は一元的に学習内容を規定せず各学校が学習内容を定めて英語指導を行っている。

(2)初等教育(Primary School)

このレベルでの教育は、1～4年生の「基礎段階」と、5～6年生の「オリエンテーション段階」の2つの段階に分けられる。初等教育においては、生徒に読み書きといった基礎学力と問題解決能力を身に付けさせることを目指し、英語、母語、数学に関する知識の習得に重点が置かれている。また、理科、芸術、道徳、社会、体育等も学び、課外活動等への参加も奨励されている。現在、午前と午後に分かれる2部制と、1部制の学校が並存している。

4年生の終わりに、学校が独自に定めた基準に基づいてテストが行われ、生徒の能力、親の希望、学校の提案等により5～6年生のオリエンテーション段階のための振り分けが行われる。これにより、オリエンテーション段階では、英語、母語、数学、科学の4科目については、個々の能力に応じた授業を受ける。6年生の終わりには初等学校卒業試験 (PSLE) を受け、その結果により、能力に応じた中等教育のコースへ進学する。

教育熱の高いシンガポールでは、子どもをどこの初等学校に通わせるかが親の最大の関心事となる。新1年生の登録は、国が定める優先順位にしたがって行われる。

優先順位は、①兄弟が同じ学校にいる場合、②親がその学校の卒業生だった場合、③親が学校で40時間以上のボランティア活動を行った場合、④学校から1キロ以内、次に1キロ～2キロ以内、その次に2キロより先に住んでいる場合等となっており、人気校ともなると早い段階で定員の多くが埋まり、優先順位のいずれにも該当しない者による一般抽選が行われる段階では、定員を上回る応募が寄せられ激しい倍率の抽選となる。抽選は居住地が学校から周囲1km圏内、1～2km、2km以遠の順に行われるため、人気校の近所へ家族ごと移転するようなケースもみられる。

6年間の初等教育は2003年1月1日に初めて義務教育とされた。これにより、身体的理由で就学が困難もしくは特別学習が必要な生徒など一部の例外を除き、親または保護者は子どもに教育を受けさせる義務を負うことになった。子どもを初等学校に通学させることを怠った親または保護者に対しては、1年以下の禁固または5,000シンガポールドル以下の罰金、もしくはその両方の刑罰が科される。

(3)中等教育(Secondary School)

中等教育は、生徒の能力に応じてエクスプレス、ノーマル—普通、ノーマル—技術の3つのコースに分けられ、4～5年間で修了する。概ね初等学校卒業時のPSLEの成績の上位から約6～7割がエクスプレス・コース、約3割がノーマル・コースに進学している。

エクスプレス・コースの生徒は、中等教育4年生の終わりに受験するシンガポール・ケンブリッジ「普通」教育認定試験(GCE-O)に向け、英語、母語、数学、科学、人文等を学ぶ。ノーマル・コースは、エクスプレス・コースと同種の科目を学ぶ普通コースと、英語、母語、数学に加えてコンピューター応用・設計技術、ビジネススキル、小売業といった実践的な科目を履修する技術コースに分けられ、4年生の終わりにシンガポール・ケンブリッジ「標準」教育認定試験(GCE-N (Normal Level))を受け、卒業する。ノーマル・コースで進学を希望する生徒は、5年生に進級しGCE-Oレベルの試験に備えることもできる。

中等教育レベルではこれらのコースの他、生徒の様々な才能や素質を伸ばすことを目的として、2種類の一貫教育課程が設けられている。一つは特に優秀な生徒を対象としたもので、GCE-Oレベルを受けることなくストレートにシンガポール・ケンブリッジ「上級」教育認定試験(GCE-A)またはそれに相当する認定試験(IB資格など)の受験ができる「統合プログラム(Integrated Programme)」である。この統合プログラムでは、中等教育と大学準備教育の両方の教育課程が提供され、生徒は、GCE-Oレベルの受験に煩わされることなく、時間をかけて創造力やリーダーシップを養う幅広い経験を積むことができる。現在、この統合プログラムは、フアチョン・インスティテューション(Hwa Chong Institution)やナショナル・ジュニア・カレッジ(National Junior College)を含む18の学校に導入されている。また、初等学校と中等学校、中等学校とジュニア・カレッジ、中等学校3年次以降とジュニア・カレッジというように、一つの学校で二つの教育課程を提供するミックスレベル(Mixed Level)と呼ばれる学校がある。その中には統合プログラムを取り入れている学校も含まれている。

もう一つは、特定の分野に秀でた能力を持つ生徒のための特別独立学校(Specialised Independent School)である。この学校では、初等学校卒業時に判定された生徒の能力を最大限に伸ばすため、独自のカリキュラムを組んでいる。現在、スポーツ能力の伸長を目指すシンガポール・スポーツ・スクール(Singapore Sports School、2004年開校)、数学と科学を集中的に学ぶNUSハイ・スクール(NUS High School of Mathematics and Science、2005年開校)、芸術分野に秀でた生徒のためのスクール・オブ・アーツ(School of the Arts、2008年開校)、最先端の科学技術分野への人材輩出を目指すスクール・オブ・サイエンス・アンド・テクノロジー(School of Science and Technology、2010年開校)の4校が設置されている。

最後に、前述の能力別コース及び一貫教育課程には組み込まれていない、特別学校(Specialised School)がある。手作業や実技訓練に関心がある生徒向けに設定されたプロ

グラムを行う職業訓練を目的とした学校であるが、PSLEの結果いずれのコースにも入れない場合の中等教育の場としての役割も担っている。

英語教育においては、英語シラバスの規定に基づき授業が行われるため、それぞれのコースによって学習内容は若干異なるが、いずれのコースでも英語学習は重要な位置づけにあるため、求められる英語力習得に向けた取り組みが進められている。

(4)中等教育卒業後

GCE-O レベルの試験を通過した生徒は、2年間のジュニア・カレッジ (Junior College) もしくは3年間の教育学院 (Centralised Institute) に進学して大学を目指すほか、工業技術や商業実務レベルの人材を育成するポリテクニク (Polytechnic) や、職業教育の中核を担う技術専門学校である技能教育学院 (ITE: Institute of Technical Education) に進学する道もある。

第3節 教育体系

(1)教育省

シンガポールには日本のような地方自治体が存在せず、教育省 (MOE: Ministry of Education) が教育行政全般を直接管轄している。シンガポールにおける教育政策の理念は、国の未来を担う子どもたちを育てることにより国を形成することであり、子どもたちにバランスのとれた十分な教育の機会を提供し、子どもたちの可能性を開発していくこと、また、子どもたちを家族、社会及び国に対する責任を意識する国民に育てていくことを公教育の使命としている。

教育省は、14の部と内部監査部から構成され、国立校 (Government School) 及び政府補助校 (Government-aided School) の管理運営に対する指揮監督や、私立学校設置等の認可等を行いながら、シンガポールの教育政策を推進している。

(2)教育法、義務教育法、学校教育習得目標

教育体系の基本法として1957年に「教育法」(Education Act)が定められている。教育法には、教育行政、学校種や名称使用、学校経営、教員人事・管理、学校評価などに関する事項が定められており、教育大臣から任命された教育長官にこれらの許認可権が与えられている。

2000年には初等教育6年間の義務教育に位置付ける「義務教育法」が成立した。イスラム主教学校等の私立学校に対しても言語教育が課せられ、一定水準以上の成績が求められることとなった。

さらにシンガポールでは学校教育を通じて身に付ける能力の習得目標として「教育到達目標 (Desired Outcomes of Education)」を教育省が示している。教育到達目標は、1997年に「考える学校、学ぶ学校」という新たな教育政策ビジョンが発表された際、このビジョンを具現化するために設定された目標である。直近の教育政策ビジョンは2004年に発表された「少なく教え、多くを学ぶ」であるが、このビジョンを具現化するためにも公

教育全体を通じて養うべき市民像が定められており、その中には「効果的なコミュニケーション」が含まれている。

(3) シラバス（教育過程）

シラバスは、教育省が教科に関する教育課程の基準として教科毎に作成・発行したもので、学校における学習指導の重要な指針となっている。学校教育はこれらのシラバスに基づいて行われており、指導内容、使用教材、教師の指導方法もシラバスの目的を達成するために一体的に行われている。シラバスの記述内容としては、目的や改正のポイント、構成原理（フレームワークやコンセプト）、学年毎の学習目標や内容、教授法、評価方法等が記載されている。シラバスの改定は教科によって異なるが、概ね5年～10年毎に改定されており、時代に合った最新の考え方や方法が採用されている。

最新の英語教育シラバスは2010年に改定された「**English Language Syllabus 2010**（以下「英語教育シラバス2010」という。）」で、2001年に策定されたシラバスの内容をベースとしながらも、社会変化に合わせて新たな内容を盛り込んだ内容となっている。

第2章 シンガポールの英語教育

シンガポールは言語教育において英語を中心に位置づけ、初等教育段階から英語教育を進めている。本章では、諸外国との比較からシンガポールの英語教育水準を概観する。

第1節 英語教育水準

Educational Testing Service(ETS)社が発表した2013年実施 TOEFL iBT Tests 結果において、シンガポールはアジアにおいて受験者の平均スコアが最も高い国となっている。

図1 TOEFL iBT Tests の国別スコア
(各分野 30 点、計 120 点満点で評価)

国	Reading	Listening	Speaking	Writing	合計
<u>シンガポール</u>	24	25	24	25	98
インド	22	23	23	23	91
パキスタン	21	22	24	23	90
マレーシア	22	23	22	23	89
フィリピン	21	22	24	23	89
韓国	22	21	21	22	85
スリランカ	20	21	22	21	85
バングラディシュ	20	21	21	22	84
香港	19	21	21	22	83
インドネシア	20	21	20	21	82
ネパール	20	20	21	21	82
※日本	18	17	17	18	70

(出所：Test and Score Data Summary for TOEFL iBT Tests January 2013-
December 2013 Test Data より作成)

TOEFL iBT Tests は大学レベルの英語を使用および理解する能力を測定するもので、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの各スキルを組み合わせ、学術的な課題を遂行する能力も評価する試験となっている。試験の対象者は世界全域で、主に英語圏の高等教育機関に留学予定の学生等が受験している。TOEFL iBT Tests のスコア結果は、国毎の受験者数にばらつきはあるものの、英語圏に留学を希望する学生等の英語力水準を把握する上で参考になる指標となっている。

2013 年に実施された試験の結果において、シンガポールはリスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの 4 分野のいずれにおいても高スコアをあげており、シンガポールの英語教育水準の高さが窺える内容となっている。

第2節 英語教育実施状況

シンガポールでは、初等教育時から英語の授業が行われている。初等教育時の英語の授業時間数はオリエンテーション前の1・2年生で週17時間、3年生で週15時間、4年生で週13時間となっている。オリエンテーション段階以降の5・6年生時の英語の授業時間数は、標準レベルの生徒で週12・13時間、基礎的レベルの生徒で16時間となっている。

中等教育時の英語の授業時間数は1・2年生時にエクスプレス及びノーマル（普通）コースの生徒で週6時間、ノーマル（技術）コースの生徒で週8時間となっている。3～5年生時にエクスプレス・コースの生徒で英語、中国語／マレー語／タミル語のいずれか、数学、人文科学を週24～26時間、ノーマル（普通）コースの生徒で週8時間、ノーマル（技術）コースの生徒で週9時間となっている。シンガポールの特徴として、週あたり総授業時数に占める言語教育の授業時間が高くなっている。

日本の初等教育における英語の授業時間数は5・6年生で週1時間、中等教育における英語の授業時間数は週4時間となっている。また、日本の初等教育における国語の授業時間数は1・2年生で9時間、3・4年生で週7時間、5・6年生時で週5時間となっている。また、中等教育時における国語の授業時間数は1・2年生で4時間、3年生で3時間となっている。この事からも、シンガポールの言語政策重視の姿勢を示しているものといえる。

図2 シンガポールの公立初等学校の授業時間数（週あたり）

【基礎段階（初等1～4年）】

科目	週あたり時数（各時間30分）			
	1年	2年	3年	4年
英語	17	17	15	13
中国語・マレー語・タミール語、道徳	15	13	12	11
数学	7	9	11	11
科学	-	-	3	4
社会	1	1(*1)	1(*2)	2
美術工芸	2	2	2	2
音楽	2	2	2	2
体育(*3)	3	3	3	3
集会	1	1	1	1
計	48	48	49	49

【注】*1 2001年から実施。

*2 2002年から実施。英語または母語の授業時間から配分。

*3 体育の時間は増える方向。

【オリエンテーション段階(初等5－6年)】

科目	週当たり時数（各時間 30 分）	
	標準レベル	基礎レベル
（試験対象科目）		
英語	12-13	16
中国語・マレー語・タミール語(*1)	8-10(*2)	4
数学	9-10	13
科学	5	3
（非試験対象科目）		
道徳		3
社会		3
美術工芸		2
音楽		1
プロジェクト学習		(*3)
体育		2
健康		1
集会(*4)		1
合計		49

【注】*1 母語については上級レベル、標準レベルのいずれかを学習。

*2 10時数の授業を行う際は、通常授業数の追加措置が必要。

*3 プロジェクト学習は3年生、4年生、5年生のいずれかの段階で学習する必要がある。生徒がプロジェクト学習の重要な過程を身に付けるために、年間20～25時間の授業配分が推奨されている。

*4 通常、校長を中心に開催される毎週の全体集会は、学校の重要事項等に関する話を含む。

図3 シンガポールの公立中等学校の授業時間数（週あたり）

【中等教育・低学年（1年及び2年）：エクスプレス・コース、ノーマル（標準）コース】

科目	週当たり時数（各時間 35分～40分）	
	エクスプレス	ノーマル（普通）
（試験対象科目）		
英語	6	6
中国語・マレー語・タミール語(*1)	6	6
数学	5	6
科学	6	5
文学	2	2
歴史	2	2
地理	2	2
美術工芸	2	2
デザイン、技術、家政	3	3
（非試験対象科目）		
社会及び道徳	2	2

体育	2	2
音楽	1	1
集会	1	1
合計	40	40

【中等教育・低学年（1年及び2年）：ノーマル（技術）コース】

科目	週当たり時数（各時間 35分～40分）	
	ノーマル（技術）	
（試験対象科目）		
英語	8	
基礎/中国語・マレー語・タミール語	3	
数学	8	
コンピューター応用技術	4	
科学	4	
技術及び家政	4	
（非試験対象科目）		
社会及び道徳	2	
体育	2	
音楽	1	
集会	1	
合計	37	

【中等教育・高学年（3年及び4年）：エクスプレス・コース】

科目	週当たり時数（各時間 35分～40分）	
	エクスプレス	
（試験対象科目）		
英語	24-26	
中国語・マレー語・タミール語		
数学		
科学		
人文		
コンピューター応用技術		
（選択科目） 数学、人文、科学、第3外国語（フランス語、日本語、ドイツ語、マレー語）、 その他科目（美術・工芸等）	2・4科目選択（8-10時間）	
（必須・非試験対象科目）		
社会及び道徳	2	
体育	2	
音楽	1	
集会	1	
合計	40	

【中等教育・高学年（3年～5年）：ノーマル（標準）コース】

科目	週当たり時数（各時間 35 分～40 分）
	ノーマル（標準）
（試験対象科目）	
英語	8
中国語・マレー語・タミール語	6
数学	6
（選択科目） 人文、科学、その他科目（美術・工芸等）	2-4 科目選択（3-8 時間）
（必須・非試験対象科目）	
社会及び道徳	2
体育	2
音楽	1
集会	1
合計	40

【中等教育・高学年（3年及び4年）：ノーマル（技術）コース】

科目	週当たり時数（各時間 35 分～40 分）
	ノーマル（標準）
（試験対象科目）	
英語	9
基礎/中国語・マレー語・タミール語	3
数学	9
コンピューター応用技術	4
（選択科目） 技術、科学、家政、事務管理、美術・工芸	1-3 科目選択（3-9 時間）
（必須・非試験対象科目）	
社会及び道徳	2
体育	2
音楽	1
集会	1
合計	40


（出所：NFER (2011). Review of the National Curriculum in England: Report on subject breadth in international jurisdictions. Slough: NFER.より作成）

※（参考）日本の英語教育改革の状況

世界でグローバル化が急速に進展する中で、日本人の将来の職業的・社会的な環境を考えると、英語によるコミュニケーション能力は、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、様々な場面で必要とされることが想定され、今まで以上にその能力の向上が課題となっている。文部科学省は初等中等教育段階からのグローバル化に対応した教育環境作

りを進めるため、2013年12月、小中高等学校を通じた英語教育改革を進める英語教育改革実施計画を発表した。

図4 グローバル化に対応した英語教育改革実施計画の概要

<p>初等中等教育段階からグローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、小学校における英語教育の充実強化、中・高等学校における英語教育の高度化など、小・中・高等学校を通じた英語教育全体の抜本的充実を図る。</p>					
<p>1. グローバル化に対応した新たな英語教育の在り方</p> <p>○小学校中学年：活動型授業を週1～2コマ程度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力の素地を養う ・学級担任を中心に指導 <p>○小学校高学年：教科型・週3コマ程度（「モジュール授業¹」も活用）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初歩的な英語の運用能力を養う ・英語指導力を備えた学級担任に加えて専科教員の積極的活用 <p>○中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な話題についての理解や簡単な情報交換、表現ができる能力を養う ・授業を英語で行う事を基本とする <p>○高等学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い話題について抽象的な内容を理解できる、英語話者とある程度流暢にやりとりができる能力を養う ・授業を英語で行うとともに、言語活動を高度化（発表、討論、交渉等） 					
<p>2. 新たな英語教育の在り方実現のための体制整備</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:33%; vertical-align: top;"> <p>○小学校における指導体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校英語教育推進リーダーの加配措置・養成研修 ・専科教員の指導力向上 ・研修用映像教材等の開発・提供 ・教員養成課程・採用の改善充実 </td> <td style="width:33%; vertical-align: top;"> <p>○中・高等学校における指導体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中・高等学校教育推進リーダーの育成 ・中・高等学校英語科教員の指導力向上 ・外部検定試験を活用し、県等ごとの教員の英語力の達成状況を定期的に検証 ※全ての英語科教員について、英検準1級、TOEFL iBT80点程度等以上の英語力を確保 </td> <td style="width:33%; vertical-align: top;"> <p>○外部人材の活用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語指導助手(ALT)の配置拡大、地域人材等の活用促進（ガイドラインの策定等） ・ALT等向けの研修強化・充実 <p>○指導用教材の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先行実施のための教材整備 ・モジュール指導用ICT教材の開発・整備 </td> </tr> </table>			<p>○小学校における指導体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校英語教育推進リーダーの加配措置・養成研修 ・専科教員の指導力向上 ・研修用映像教材等の開発・提供 ・教員養成課程・採用の改善充実 	<p>○中・高等学校における指導体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中・高等学校教育推進リーダーの育成 ・中・高等学校英語科教員の指導力向上 ・外部検定試験を活用し、県等ごとの教員の英語力の達成状況を定期的に検証 ※全ての英語科教員について、英検準1級、TOEFL iBT80点程度等以上の英語力を確保 	<p>○外部人材の活用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語指導助手(ALT)の配置拡大、地域人材等の活用促進（ガイドラインの策定等） ・ALT等向けの研修強化・充実 <p>○指導用教材の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先行実施のための教材整備 ・モジュール指導用ICT教材の開発・整備
<p>○小学校における指導体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校英語教育推進リーダーの加配措置・養成研修 ・専科教員の指導力向上 ・研修用映像教材等の開発・提供 ・教員養成課程・採用の改善充実 	<p>○中・高等学校における指導体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中・高等学校教育推進リーダーの育成 ・中・高等学校英語科教員の指導力向上 ・外部検定試験を活用し、県等ごとの教員の英語力の達成状況を定期的に検証 ※全ての英語科教員について、英検準1級、TOEFL iBT80点程度等以上の英語力を確保 	<p>○外部人材の活用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語指導助手(ALT)の配置拡大、地域人材等の活用促進（ガイドラインの策定等） ・ALT等向けの研修強化・充実 <p>○指導用教材の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先行実施のための教材整備 ・モジュール指導用ICT教材の開発・整備 			
					
<p>小・中・高の各段階を通じて英語教育を充実し、生徒の英語力を向上（高校卒業段階で英検2～準1級、TOEFL iBT57点程度以上等） →外部検定試験を活用して生徒の英語力を検証するとともに、大学入試においても4技能を測定可能な英検、TOEFL等の資格・検定試験等の活用の普及・拡大</p>					
<p>3. スケジュール（イメージ）</p> <p>○2014年1月頃 有識者会議設置</p>					

¹ 標準授業時間数に含まれないが、児童会活動やクラブ活動について、年間、学期ごと、月ごとに適切な授業時間数を充てるものとされている。活動時間は15分。

○2014～2018年度 指導体制の整備、英語教育強化地域拠点事業・教育課程特例校による先取り実施の拡大

○中央教育審議会での検討を経て学習指導要領を改訂し、2018年度から段階的に先行実施

○東京オリンピック・パラリンピック開催に合わせて2020年度から全面实施

(出所：文部科学省(2013年)「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画の概要」より作成)

さらに、2014年9月、英語教育改革実施計画を具現化するため、「英語教育の在り方に関する有識者会議」が行った「今後の英語教育の改善・充実方策について 報告(概要)～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～」が発表された。「五つの提言」は「改革1. 国が示す教育目標・内容の改善」、「改革2. 学校における指導と評価の改善」、「改革3. 高等学校・大学の英語力の評価及び入学者選抜の改善」、「改革4. 教科書・教材の充実」、「改革5. 学校における指導体制の充実」となっている。

この提言の特徴は、日本人の英語力の向上が日本の将来にとって極めて重要で、日本はアジアの中でトップクラスの英語力を目指すべきとの認識に基づき、今後の日本の英語教育改革においては「英語によるコミュニケーション能力を高めること」を重視し、「聞く」「話す」「読む」「書く」という英語の基礎的・基本的な知識・技能と、これらの能力を活用して主体的に課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を図るとし、英語学習の到達目標を具体的に提示し、教育段階毎の学習の方向性を提言している点にある。

例えば、改革案の基本となる「改革1. 国が示す教育目標・内容の改善」に関する提言内容として、生徒が身につける英語力の目標として、中等教育卒業段階では、平成26年6月に閣議決定された「教育振興基本計画」で掲げられた英検3級以上を達成した中学生の割合を50%以上とする目標が提示されている

また、高等学校卒業段階では、英検準2級～2級程度以上を達成した高校生の割合を50%とする目標に加え、高校生の特性や、留学等も含めた進路に応じて英検2級から準1級、TOEFL iBT Testにおいて60点以上等を目標として設定し、生徒の英語力の把握・分析・改善を行う事が提示されている。

この提言を踏まえ、2014年11月に文部科学大臣から中央審議会に諮問された「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」等の全体的な議論において、「小学校から高等学校までを通じて達成を目指すべき教育目標を英語を使って何ができるようになるかという観点から四技能に係る一貫した具体的な指標の形式で示すこと」、「小学校では中学年から外国語活動を開始し音声に慣れ親しませるとともに、高学年では学習の系統性を持たせる観点から教科書として行い、身近で簡単なことについて互いの考えや気持ちを伝え合う能力を養うこと」、「中学校では授業は英語で行うことを基本とし、身近な話題について互いの考えや気持ちを伝え合う能力を高めること」、「高等学校では、幅広い話題について発表・討論・交渉などを行う能力を高めること」として、学校における指導と評価の改善、高等学校・大学の英語力の評価及び入学者選抜の改善、教科書・教材の

充実、学校における指導体制の充実等について、具体的な検討が進められる予定になっている。

第3章 英語教育シラバス

シンガポールの英語教育は英語教育シラバスの内容に基づいて各学校現場でその内容が実践されている。本章では、英語教育実施の基本となる最新の英語教育シラバスである「英語教育シラバス 2010」の概要を説明する。

第1節 英語教育シラバスの特徴

シンガポールでは初等学校及び中等学校での英語教育のシラバスが策定されており、最新の英語教育シラバスは2010年に大幅に改定され施行されている。改訂後のシラバスは2001年に策定されたシラバスの内容をベースとしながらも、21世紀に必要な資質の習得をより明確に意識したものになっている。具体的には、グローバル社会での確に自信を持ってコミュニケーションを取るための発信力である会話表現力、筆記表現力を重視した内容となっている。また、各種メディアの発達に伴い、言語や思考力を身に付ける上で視覚を通じた情報理解力や発信力が大事になってきていることから、ICT等の活用を通じた視覚理解力の強化、表現力の強化を重視した内容になっている。今回のシラバス改定は変化の激しい社会に対応することの重要性を認識し、対応力を身に付ける教育の推進を意図している。

142ページのシラバスは「指導方針」、「学習内容」、「教師の役割」から構成されている。「指導方針」の章には「英語の位置づけ」、「英語学習到達目標」、「シラバス策定の考え方」等がまとめて記載されている。「学習内容」の章には「聞き取り力(Listening and Viewing)」、「読解力(Reading and Viewing)」、「会話表現力(Speaking and Representing)」、「筆記表現力(Writing and Representing)」、「文法(Grammar)」、「語彙(Vocabulary)」の学習内容がまとめて記載されている。「教師の役割」の章には、「学習指導方法」、「学習指導評価」がまとめて記載されている。

「英語教育シラバス 2010」の特徴は「英語の位置づけの明確さ」、「初等学校6年間と中等学校4～5年間の学習内容を一体的に接続した総合的・効果的な学習」が挙げられる。つまり、教師はシンガポールにおける英語の位置づけを明確に理解し、生徒が英語学習到達目標を達成するために小学校6年間と中学校4～5年間の学習内容を一体的に接続して、学習段階に応じて「聞き取り力(Listening and Viewing)」、「読解力(Reading and Viewing)」、「会話表現力(Speaking and Representing)」、「筆記表現力(Writing and Representing)」、「文法(Grammar)」、「語彙(Vocabulary)」の6つの学習分野をバランスよく習得する内容となっている。

第2節 英語教育シラバスの内容

1 指導方針

(1)英語の位置づけ

最新の英語教育シラバスは2010年に改定されたもので、2001年に作成されたシラバスの内容を踏襲しながらも、考える力の養成、ICTの効果的な活用を促進する内容となっている。

「英語教育シラバス 2010」では、シンガポールにおける英語の位置づけとして、①英語は国家の共通言語であること、②インターネット、科学技術、国際貿易等の英語をベースとする知識集約型分野にシンガポール人が参画できるように習得すべきものとされている。

(2)英語学習到達目標

シンガポールの学校教育においては、高度な英語力を身に付ける事が求められる。シラバスでは生徒が身に付ける英語力として、下記のとおり規定している。

- ①生徒は英語で自らについて表現する能力を身に付けなければならない。特に、文法、記述、基礎的な発音が出来ようになるために、基礎的なスキルを身に付けなければならない。
- ②大部分の生徒は、英語で十分に表現し、記述出来るレベルの言語能力を身に付けなければならない。
- ③少なくとも全体の2割の生徒は高度な英語能力を身に付けなければならない。これらの生徒はシンガポールが専門性の高い分野で国際的優位性を築く人材として英語圏の国々の優秀な人々と同等の英語力を身に付ける必要がある。

2 指導内容の概要

シンガポールでは、上記の英語学習到達目標を達成するために、中学校卒業までに、情報理解力を基調とする(1)聞き取り力(Listening and Viewing)、(2)読解力(Reading and Viewing)、外向きの発信力を基調とする(3)会話表現力(Speaking and Representing)、(4)筆記表現力(Writing and Representing)、知識力を基調とする(5)文法(Grammar)、(6)語彙(Vocabulary)を指導する内容となっており、自らの意見を述べて他者とコミュニケーションを取れる能力を習得する内容となっている。学習支援の面では、初等教育、中等教育を通じて、学習者が英語を学ばされているという受け身ではなく、自分の成長のためという意識で主体的に学習に取り組むよう指導をすることが求められており、学習者が常に学習目的を意識して学習する教育を進めている。

具体的な指導内容は、初等教育の段階では生徒の発達段階に応じて分野毎の基礎能力を身に付けられるよう、各分野の基礎的な内容を習得しながら自らの考えを会話や文章で表現できるよう指導する事となっている。

特に初等教育においては **STELLAR** と呼ばれる「英語学習、読解力養成の戦略」に基づき、初等学校の生徒が身近に感じられる童話や寓話等を教材にした読解力を基礎にして「聞き、話す、読む、書く」という総合的な英語力を身につける教育が行われている。

STELLAR とは「Strategies for English Language Learning and Reading」の略で、2006年以降初等教育の低学年から段階的に開始された指導方法である。学校における英語学習に関する研究から、英語学習において読解力の養成が高度な英語力を身に付ける上で重要な要素と考え、生徒が理解しやすい題材をテーマとした教材を使用し、教師と

生徒の相互のコミュニケーション、記述指導、文法、語彙の指導が行われている。中等教育においては初等教育で身に付けた英語の基礎能力に基づき、より高度な内容の会話や文章を理解し、自分の意見を口頭でも文章においても的確に伝える能力を身につける指導が行われている。特に中等教育においては、文学を題材とした「Literature English Teaching Syllabus 2013」の内容に基づき、散文、詩、演劇を題材に、批判的思考の養成、効果的なコミュニケーション能力の向上、多様な世界観を身に付ける指導が行われている。

3 具体的な指導内容

(1) 聞き取り力(Listening and Viewing)

聞き取り力は、会話表現力と同様に英語学習開始時において、英語の強固な基礎力を身に付ける上で特に必要とされる。

① 聞き取り力養成に向けた指導方針

生徒が英語学習の上で重要な聞き取り力を身に付けるため、下記の指導方針の下で授業を行うこととされている。

- ・ 積極的な学習態度、学習姿勢を身に付けるように指導する。
- ・ 実際の会話、オーディオ教材、視覚教材を使用して、生徒が場面や文脈における言葉の音や意味が理解できるように指導する。
- ・ 話の要点を理解し、話の流れを予測、推測できる聞き取り能力を身に付けるため、小学校1年生から重点的に指導する。
- ・ ブレインストーミング、コンセプトマッピング、写真や図表等を活用して、アクティブ・リスニングを身につけるように指導する。アクティブ・リスニングとは英語のリズムからとりわけ強調される言葉を聞き出して要点を把握し、英語の文章構造にポイントにおいてさらに具体的に聞き取り、その内容を要約するものである。
- ・ 生徒が会話、オーディオ教材、教科書等の活用を通じて英語の重要性を理解し、学習を楽しみ、成長できる機会を提供する。

② 初等教育時の指導内容

初等教育時の指導内容としては、まず、聞き取り力は受動的なものではなく、他人とコミュニケーションを進める上で重要なものであると理解できるような指導を行う。聞き取り力を身に付ける上で大切となる母音・子音の認識、ニュアンスを理解するために重要な会話のペース、会話のトーン、会話の強弱について指導を行う。また、具体的な会話場面のイメージが持てるように、教師は生徒に様々な場面、例えば、生徒と教師の会話、買物時の会話、人前での発表時の質疑応答等を想定した会話表現等の指導を行う。指導においては、生徒が効果的にこれらの能力を身に付けられるように段階的に学習するように考えられており、例えば、事実と意見の違い、感情表現時の言葉の使い方、ディベート表現等は、小学校の中学年や高学年で指導する。

③中等教育時の指導内容

中等教育時の指導内容としては、初等教育時の学習内容に基づき、クリティカルリスニングの強化、概念図等を活用した情報理解、相手の話の内容を理解して議論できるような正確な聞き取り力の養成等の指導を行う。聞き取り力を身に付けるためのツールとしてDVD、デジタルオーディオ機器、インターネット、ラジオ、ライブ撮影教材を活用する。

(2) 読解力(Reading and Viewing)

読解力は様々な文脈を理解し、その意図を理解するために必要とされる。

①読解力養成に向けた指導方針

生徒が英語学習の上で重要な読解力を身に付けるため、下記の指導方針の下で授業を行うこととされている。

- ・教師のサポートを得ながら書かれた内容を理解する段階、音読により内容を理解できるようになる段階、黙読により内容を理解できるような段階といった、生徒の発達段階に応じた指導を行う。
- ・読書方法として、文章の前部から後部に読み進める方法、文書の後部から前部に進める等、場面毎の目的に沿って対応できるような読書方法の指導を行う。
- ・様々な文章、文学、情報等を十分理解できるような読書力養成の指導を行う。
- ・模範的な文書や言葉の使い方をしている文書に多く触れられるような機会を作る。

②初等教育時の指導内容

初等教育時の指導内容としては、まず、読解力は言語習得過程において音声理解が大切であるため、音声を文字に置き換えながら指導する。特に低学年時にはアルファベットから指導するが、その際には音声と文字を密接に関連させた指導を行う。具体的には、教師がまず文字や文章を大きな声で発音し、その後、生徒が音読する形で指導する。また、読解力を身に付けやすいように、読書対象として寓話、童話、ファンタジー、伝記、神話を活用して指導する。発表時の質疑応答を想定した会話表現等の指導も行う。高学年時には、様々な種類の文書を読み、筆者の意図の理解等の学習を指導する。

③中等教育時の指導内容

中等教育時の指導内容は、初等教育時の学習内容に基づきスキミング、スキヤニング、文章内容の分析等、より深い読解力の養成に向けた指導を行う。特に、中等教育ではより深い読解力を身に付けるために、様々な表現方法や行間の意図の理解等についても指導を行う。また、「Literature English Teaching Syllabus 2013」に基づいた読解力を強化するため、「批判的思考力、自立した読書力、文章の分析・理解力」、「文学表現や他人の視点に対する効果的な表現力」、「散文、詩、演劇の多様な世界観の理解力」の養成について指導を行う。これらの読解力を身に付けるためのツールとして、子供文学、シン

ガポール人作家の作品、散文・詩・ドラマ等の様々な文体、伝記、日記・ブログ、選集等を活用する事とされている。

(3) 会話表現力(Speaking and Representing)

会話表現力は聞き取り力と合わせて、英語学習の初期段階から身に付けるべき重要な基礎能力で、会話や自分の意見を表現する際に必要とされる。

① 会話表現力養成に向けた指導方針

生徒が英語学習の上で重要な会話表現力を身に付けるため、下記の指導方針の下で授業を行うこととされている。

- ・ 正確な文法、流暢さ、場面に応じた適切な内容でもって、国際的な標準英語とされる英語表現力が身に付くように導く。
- ・ 会話表現の重要な要素を指導する。
- ・ 発音を正確に指導する。
- ・ プレゼンテーションにおける、話のペース、声の大きさや強弱等の重要性を指導する。
- ・ プレゼンテーションにおいて、視覚・音声素材、言葉の表現・言葉以外の表現がプレゼンテーションにどれほどの効果をもたらすかを明示する。
- ・ 多様なメディア等を活用して、自分の意見をまとめ表現するような機会を作る。
- ・ 会話、スピーチ等の様々な場面に触れさせる。

② 初等教育の指導内容

初等教育の指導内容は、低学年において会話表現の基本的な形態を理解できるよう、実践的具体例を示して指導する。挨拶表現については相互に挨拶が出来るように具体的な挨拶表現を実践的に指導する。また、言葉を伝える上で大切となる正確かつ明瞭な発音、話すペース、声量や強弱等を指導する。高学年は相手により分かりやすく伝えられるよう具体例や経験等を交えた表現方法、諺・イディオムを交えた表現方法を指導する。さらに自分の考えを要約し、相手の同意を得られるような表現方法を指導する。

③ 中等教育時の指導内容

中等教育は初等教育の学習内容に基づき様々な場面に応じて適切な会話表現ができるように指導する。プレゼンテーションの表現方法としても、正確かつ明瞭な発音、話すペース、声量や強弱等への意識はもちろんこと、聴衆へのアイコンタクト、主張したい内容を聴衆に理解してもらえよう表現方法を指導する。

(4) 筆記表現力 (Writing and Representing)

筆記表現力は、学校での学習や他人と効果的にコミュニケーションを図る上で必要とされる。

①筆記表現力養成に向けた指導方針

英語学習上重要な筆記表現力を身に付けるため、下記の指導方針で授業を行う。

- ・筆記表現力の学習過程を通じて、批判的な思考力や想像力を伸ばし、筆記表現の楽しさを意識できるよう指導する。
- ・文章を書くことを促し、書き手としての創造性や知識を増やせるように指導する。
- ・グローバル・コミュニケーションの要求に対応できるようワープロソフトやプレゼンテーションソフトを使えるように指導する。
- ・ブレインストーミング、コンセプトマッピング、写真や図表等を活用して、アクティブ・リスニングを身に付けるように導く。

②初等教育時の指導内容

初等教育では筆記表現力の基本となる文字理解のために、アルファベットの読み方から指導する。子供たちは英語の音を識別できるようになるにつれ、音と文字を関連付けて理解できるようになる。

教師は鉛筆で文字を左から右へ、上段から下段に書くような指導を行う。低学年時には、文章を節単位で理解できるように指導し、段落単位で理解できるように段階的に指導する。文字が理解できるようになった後は、考えをまとめ記述できるように指導する。この場合、教師は、出来るだけ生徒に寄り添って作業を行い、文法、スペルに誤りがないかに配慮して指導する。

③中等教育時の指導内容

中等教育時以降は生徒の筆記表現力や一般知識も増えてくるため、より高度な文章構成力や表現等を指導する。初等教育時の学習内容に基づき、自分の意見をまとめ、適切に表現できるよう指導する。単語や文法の正確性を踏まえ、文章の全体構成を意識し、文単位、段落単位で自分の考え方をまとめ、効果的な筆記表現力が身に付くように指導する。様々な情報を整理、集約して考えをまとめ、正確な文章で効果的に主旨を伝える筆記表現力が特に重要とされており、教師はこの点を意識して指導する。

(5) 文法(Grammar) 力

正確な文法力は、正確で的確な英語表現、様々な場面で適切に英語を使いこなす上で必要とされる。

①正確な文法力習得に向けた指導方針

生徒が正確な文法力を身に付けるため、下記の指導方針で授業を行う。

- ・文脈に応じて正確な表現が出来る文法力が身に付くように指導する。
- ・文法知識を聞き取り力、読解力、会話表現力、筆記表現力の学習分野と関連づけて指導する。

- ・ 正確な文法習得には、過去の文法学習の反復学習が大切となるため、新しい文法知識を指導する際には過去の学習内容と関連付けて指導する。
- ・ 正確な文法表現のコミュニケーションにおける有用性を生徒が理解できるように指導する。

②初等教育時の指導内容

初等教育では聞き取り力、読解力、会話表現力、筆記表現力の4技能の基礎力を身に付けることが大切である。教師は生徒がこれら4技能の基礎力を身に付けることに配慮し、文法については、英語の文書構造の特徴や使い方を認識できるように指導する。英語の文章構造や文法規則を理解する上では、聞き取り、筆記のための教材から例文を用い、正確な文法表現を指導する。

③中等教育時の指導内容

中等教育ではより難易度の高い文法理解、より複雑な文脈における正確な文法理解ができるように指導を行う。

(6) 語彙(Vocabulary)文法

効果的な言語使用には適切な場面で適切な表現ができる豊富な語彙力が重要となる。

①語彙力習得に向けた指導方針

生徒が英語学習の上で重要な語彙力を身に付けるため、下記の指導方針の下で授業を行う事とされている。

- ・ 文脈における言葉の意味、定義が理解できるように指導する。
- ・ 様々な場面に応じた適切な語彙選択ができるように指導する。
- ・ 語彙習得に向けて、聞き取り力、読解力、会話表現力、筆記表現力の4技能と関連付けて指導する。

②初等教育時の指導内容

初等教育時は語彙の習得を生徒の経験に関連付け、英語学習の楽しさを感じられるように指導する。一つの語彙について同義語、反義語と関連付けて指導する。語彙の習得は聞き取り、読解、会話表現、筆記表現を通じて身に付くものであるため、生徒の成長段階に応じて、語彙が身に付くように反復指導を行う。

③中等教育時の指導内容

中等教育ではより多くの単語を身に付けられるように指導する。特に単語の語源や成り立ち等を理解し、文章においては文脈に、会話においては場面・状況に相応しい語彙を使いこなせるように指導する。

4 教師の役割

シンガポールでは英語教師が英語学習のリーダーとして、常に生徒の能力・関心に見合った英語学習カリキュラムの作成を行う必要がある。教師は生徒が聞き取り力、会話力、記述力、表現力を伸ばす上で必要となる文法や語彙を学び、先に示した学習達成目標を果たせるように指導する事が求められる。教師の指導内容と生徒が目標を達成する上で必要となる要素にギャップが生じた場合は、教師は常に指導方法や内容を改善する事が求められる。教師が指導するにあたっては、学習・授業指導方針として下記が示されている。

(1) 学習方針

学校指導要領において、英語指導・学習指導方針として、6つの学習方針が示されている。

①理にかなった学習

学習者が実際に正確な英語を使えるように、適切に学習課題を設定して指導する。授業では英語学習達成目標を達成できるような学習内容とするために、様々な場面・対象・文脈等にふさわしい会話、筆記表現ができるよう指導する。

②学習者を中心とした視点

学習者は英語指導・学習過程において常に中心となるべき存在である。教師は生徒のニーズ・能力・関心に対応して言語能力を向上できるよう指導する。

③生徒と教師の相互作用を重視した学習

教師は学習者が聞き取り能力や会話能力を中心としたコミュニケーション能力を身に着けられる環境づくりに配慮し、指導する。同時に、教師は様々な文化的背景を持つ学習者に寄り添って、生徒が学習を通して自信を深められるように配慮する。

④全体的な統制

学習者が語学学習分野である理解能力、発意能力、文法能力、語彙能力を習得できるよう、プリント教材やビジュアル教材等は一貫性を持たせて統合的に指導する。これにより、学習効果を高めることができる。

⑤段階的な指導

言語知識等の習得には学習過程が重要となる。教師は生徒が最終的に会話・記述表現を習得できるよう生徒の理解度の段階に基づいて指導する。生徒の文法理解力、文章理解力、表現能力等の状況に応じて学習内容を段階的に高度化させていく。このような基礎から応用へという段階的な指導を通じて、生徒の英語能力を基礎能力からより高いレベルの言語習得段階へと高める事ができる。

(2)授業指導方法

6つの指導・学習方針による統合的アプローチにより、生徒に英語を指導する方針が示されている。

① 生徒の関心を引き付ける

興味深いと感じられる学習経験を生かして指導し、生徒の関心を高める。

②学習内容・知識の固定化を図る

生徒の知識や経験を新たな課題にどのように適用するかを示すことで、学習内容により深い意味をもたらし、学習内容や知識の固定化を図る。

③学習評価の実施

教師は常に目標と生徒の現状に乖離がないかを判断して必要な改善策を講じる。教師は常に目標と生徒の現況を把握し、着実に次の学習過程に生徒を導く。

④学習内容を実践させる

学習内容を実践させることで知識が身につくように指導する。

⑤生徒に気づかせる

既存の知識に基づいて自問させ、思考を深めさせ、生徒に気づきをもたらす。

⑥明確に示す

生徒に学習の意義を明確に知らせることで生徒は効果的な学習を行うことができる。

第4章 学校教育におけるシンガポールの英語教材

前章では英語教育の基礎となるシラバスの概要を紹介したが、本章では学校現場で使用されている教科書の概要を説明する。シンガポールの学校ではシラバスに基づいて授業を行い、シラバスが規定する学習目標を実現できるように授業が実施されている。教科書の内容もシラバスで規定された学習内容を生徒が身に付けられるように編集されているが、近年、学校で使用される教科書について変化が起きている。

シンガポールの学校で現在使用されている教科書は3種類に分類される。1つ目はシンガポール教育省の検定と認可を経た教科書で、シラバスの内容に基づいて学習目的、学習内容、演習問題等が一冊の教科書として編集されたものである。2つ目は近年小学校の英語教育で実践されているもので、童話や寓話等、初等教育の生徒にとって身近で理解しやすい書籍を教育省が購入し、教科書として各小学校に配布している。3つ目は社会環境の変化が著しい中、教科書の内容が時代に即したものでなかったり、教科書のレベルが生徒の学習レベルに適さなかったりする状況にあるため、教師が自ら教材を作成し、教科書として使用している。従来は全ての学校が教育省認可の教科書を使用して授業を行っていたが、近年「考える学校、学ぶ国家」、「革新・創業精神」、「少なく教え、多く学ぶ」という教育政策の下、教科書の内容や形態に変化が生じている。

第1節 教育省の認可を得た教科書

(1) 特徴

シンガポールにおける英語教科書の特徴として4点挙げられる。

1つ目は教科書がシラバスに忠実に作成されていることである。例えば、シンガポールの中学校1年生の授業で使用される教科書である「All About English Textbook Secondary 1 (Express/Normal(Academic))」には教科書が「シラバス 2010」に準拠して作成されたことが明記されており、学習内容も(1)聞き取り力(Listening and Viewing)、(2)読解力(Reading and Viewing)、外向きの発信力を基調とする(3)会話表現力(Speaking and Representing)、(4)筆記表現力(Writing and Representing)、知識力を基調とする(5)文法(Grammar)、(6)語彙(Vocabulary)を学ぶことが明記されている。教科書の構成内容もこれに基づいている。

2つ目は英語学習の目的や意義が明確に記載されていることである。前書きには英語が国際的なエンターテインメント、スポーツ、ビジネスにおいて多様な文化・国々の人々とコミュニケーションをとるツールとして重要であること、多くの国々のリーダーは自らの考えを伝えるために英語を使いこなしていること等が記載されており、英語学習・習得がいかに重要であるかが明記されている。また、英語を学習する理由として、英語学習は新しい知識を身につけるため、身の回りの世界を理解するためであり、自分を表現して他者との関係を構築する上で重要であるためであると生徒に語りかけている。さらに、この教科書で学習することで自信を持って流暢に英語を話せるようになり、正確に話し、書けるようになる。また明確に自分の考えを伝えられるようになり、間違いを減らすことができ、自分で間違った英語を修正して編集する能力を伸ばせることが記載されている。

3つ目は学習者に対して受け身で学習するのではなく、自ら積極的に学習することを求めている点である。例えば、生徒に向けて、英語は教えられるものではなく自ら学ばなければならないものであって、単に教科書に書かれていることを覚えるものではなく、自ら学びたいという気持ちを持って学ぶべきものであり、学習の中心は生徒であると述べられている。

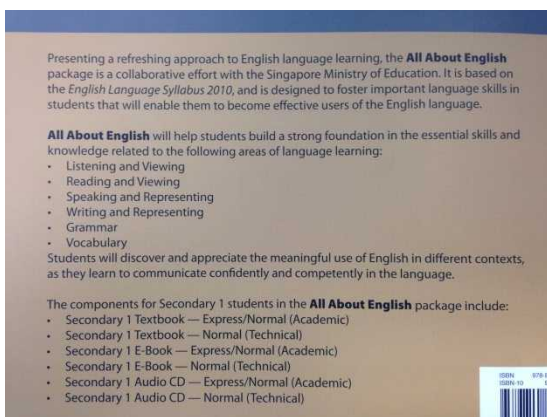
4つ目は、英語学習の4技能（聞き、話す、読む、書く）を強化し総合的に伸ばすとともに、学習内容が外向きの発信力の向上を目指している点である。シラバスの成果指標として、大部分の生徒は英語で十分に表現し、記述出来るレベルの言語能力を身に付けなければならないとされているように、シンガポールの英語学習においては、自分の考えを外向きに伝える能力を身に付けることを求めている。

(2)内容

全体の構成は、(1)聞き取り力(Listening and Viewing)、(2)読解力(Reading and Viewing)、(3)会話表現力(Speaking and Representing)、(4)筆記表現力(Writing and Representing)の4つからなる。各セクションは6～10の単元で構成されており、単元毎の学習が次の学習につながるように段階的に構成されている。

取り挙げる題材は生徒に身近な内容で構成されており、生徒は学習内容を実生活でどのように使用するかイメージしながら学習できる内容となっている。

教科書の欄外には理解を進める上での「Key Concept」、語彙の「Definition」、学習する上での注意点である「Attention!」、内容理解を深めるための「Extension」、過去の学習過程を確認する「Reflection!」が設けられており、学習を手助けしている。また、写真、イラスト、カラー紙面が多用されており、充実した内容を盛り込んで生徒の学習意欲を引き出している。



【シラバスに基づいて作成された教科書】

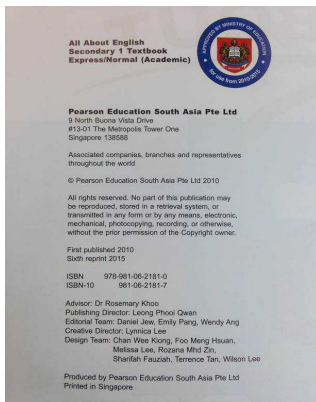
Contents	
Section 1: LISTENING AND VIEWING	2
Chapter 1 Listening and Viewing Actively	6
Chapter 2 Listening and Responding	13
Chapter 3 Recognising Voice Qualities	17
Chapter 4 Identifying Main Ideas and Details	21
Chapter 5 Making Predictions when Listening and Viewing	27
Chapter 6 Making Inferences when Listening and Viewing	34
Section 2: READING AND VIEWING	34
Chapter 7 Understanding Organisational Patterns	40
Chapter 8 Making Outlines	46
Chapter 9 Skimming	51
Chapter 10 Scanning	59
Chapter 11 Using Contextual Clues to Understand Meaning	67
Chapter 12 Comparing and Contrasting Information	72
Chapter 13 Distinguishing Fact from Opinion	80
Chapter 14 Making Predictions when Reading and Viewing	87
Chapter 15 Making Inferences when Reading and Viewing	94
Chapter 16 Gathering Information	97
Section 3: SPEAKING AND REPRESENTING	106
Chapter 17 Understanding Register	112
Chapter 18 Improving Pronunciation	117
Chapter 19 Understanding Word and Sentence Stress	124
Chapter 20 Making Conversation	135
Chapter 21 Brainstorming	138
Chapter 22 Planning Presentations	143
Chapter 23 Delivering Presentations	150
Section 4: WRITING AND REPRESENTING	150
Chapter 24 Writing Personal Accounts	163
Chapter 25 Writing Narratives: Short Stories	179
Chapter 26 Writing Procedures	194
Chapter 27 Writing Factual Accounts: Biographies	208
Chapter 28 Writing Information Reports	223
Chapter 29 Writing Explanations	236
Chapter 30 Writing Expositions: Persuasive Essays	250
Chapter 31 Writing Personal Letters and Email	263
Read and Respond: An Introduction	264
Read and Respond: <i>Six Acres Antarctica: Into the Teeth of the Ice</i>	267
Read and Respond: <i>The Cornish Bearer</i>	273
Read and Respond: <i>The Ironman</i>	278
Read and Respond: <i>A World on the Move</i>	279
Index	280
Acknowledgements	280

【シラバスに基づくセクション構成】

(3)教科書の選定方法

シンガポールでは数種類の教科書が発行されており、これらは全て教育省の検定と認可を得て使用されている。教育省の認可を得た教科書は検定合格を表す教育省のスタンプが押され、Approved Textbook List (ATL)として登録・掲載され、毎年8月1日に公示される。各学校は、これらのリストの中から教科書や副教材を選んで使用する。教育省の認可を得た教科書や副教材はシンガポール教育省の公式ウェブサイトに掲載されている。

現在、初等教育については Pearson Education South Asia 社、Marshall Cavendish Education 社、Teachers' Production 社の3社、中等教育については Pearson Education South Asia 社、Marshall Cavendish Education 社の2社が教育省の認可を得た教科書を発行している。ATLとして登録・掲載されている教科書類は一般の書籍店でも購入できる。



【検定スタンプが押された教科書】

以下に、教育省承認教科書を紹介する。

【図 4 教育省承認教材一覧 (Primary School)】

Subject	Title	Level / Course	Book Type/ Volume	Publisher	Period Approved	Price (\$S)	Section
ENGLISH LANGUAGE	About Grammar (Basic)	P3,P4	Grammar Book	Pearson Education South Asia Pte Ltd	2011 - 2015	8.25	Optional Enrichment Material
ENGLISH LANGUAGE	About Grammar : Intermediate Reference Book	P5,P6	Grammar Book	Pearson Education South Asia Pte Ltd	2012 - 2016	10.05	Optional Enrichment Material
ENGLISH LANGUAGE	Marshall Cavendish English Practice Book	P6S	Practice Book Part A	Marshall Cavendish Education (formerly MCIS)	2015 - 2019	NFY	Optional Enrichment Material
ENGLISH LANGUAGE	Marshall Cavendish English Practice Book	P6S	Practice Book Part B	Marshall Cavendish Education (formerly MCIS)	2015 - 2019	NFY	Optional Enrichment Material
ENGLISH LANGUAGE	Marshall Cavendish English Pupil Book 3	P3	Pupil Book	Marshall Cavendish Education (formerly MCIS)	2011 - 2015	3.20	Optional Enrichment Material
ENGLISH LANGUAGE	Marshall Cavendish English Pupil Book 4	P4	Pupil Book	Marshall Cavendish Education (formerly MCIS)	2012 - 2016	3.10	Optional Enrichment Material
ENGLISH LANGUAGE	Marshall Cavendish English Pupil Book 5	P5S	Pupil Book	Marshall Cavendish Education (formerly MCIS)	2013 - 2017	2.90	Optional Enrichment Material
ENGLISH LANGUAGE	Marshall Cavendish English Pupil Workbook	P3	Pupil Workbook Part 1	Marshall Cavendish Education (formerly MCIS)	2011 - 2015	1.35	Optional Enrichment Material
ENGLISH LANGUAGE	Marshall Cavendish English Pupil Workbook	P4	Pupil Workbook Part 1	Marshall Cavendish Education (formerly MCIS)	2012 - 2016	1.25	Optional Enrichment Material
ENGLISH LANGUAGE	Marshall Cavendish English Pupil Workbook	P5S	Pupil Workbook Part 1	Marshall Cavendish Education (formerly MCIS)	2013 - 2017	1.15	Optional Enrichment Material
ENGLISH LANGUAGE	Marshall Cavendish English Pupil Workbook	P3	Pupil Workbook Part 2	Marshall Cavendish Education (formerly MCIS)	2011 - 2015	1.35	Optional Enrichment Material
ENGLISH LANGUAGE	Marshall Cavendish English Pupil Workbook	P4	Pupil Workbook Part 2	Marshall Cavendish Education (formerly MCIS)	2012 - 2016	1.25	Optional Enrichment Material
ENGLISH LANGUAGE	Marshall Cavendish English Pupil Workbook	P5S	Pupil Workbook Part2	Marshall Cavendish Education (formerly MCIS)	2013 - 2017	1.15	Optional Enrichment Material
ENGLISH LANGUAGE	STELLAR Handwriting 1	P1	Writing Exercise Book	Teachers' Production	2011 - 2016	4.00	Optional Enrichment Material
ENGLISH LANGUAGE	STELLAR Handwriting 2	P2	Writing Exercise Book	Teachers' Production	2011 - 2016	4.00	Optional Enrichment Material
ENGLISH LANGUAGE	STELLAR Handwriting 3	P3	Writing Exercise Book	Teachers' Production	2013 - 2017	4.00	Optional Enrichment Material

【図 5 教育省承認教科書一覧 (Secondary School)】

Subject	Title	Level / Course	Book Type / Volume	Publisher	Period Approved	Edition	Price (\$)	Section
ENGLISH LANGUAGE	All About English Secondary 1	S1E,S1NA	Textbook	Pearson Education South Asia Pte Ltd	2010 - 2015		19.30	Student Material
ENGLISH LANGUAGE	All About English Secondary 1	S1NT	Textbook	Pearson Education South Asia Pte Ltd	2010 - 2015		19.30	Student Material
ENGLISH LANGUAGE	All About English Secondary 2	S2E	Textbook	Pearson Education South Asia Pte Ltd	2011 - 2015		20.50	Student Material
ENGLISH LANGUAGE	All About English Secondary 2	S2NA	Textbook	Pearson Education South Asia Pte Ltd	2011 - 2015		20.50	Student Material
ENGLISH LANGUAGE	All About English Secondary 2	S2NT	Textbook	Pearson Education South Asia Pte Ltd	2011 - 2015		19.30	Student Material
ENGLISH LANGUAGE	All About English Secondary 3	S3E	Textbook	Pearson Education South Asia Pte Ltd	2012 - 2016	1E	18.90	Student Material
ENGLISH LANGUAGE	All About English Secondary 3	S3NA	Textbook	Pearson Education South Asia Pte Ltd	2012 - 2016	1E	18.90	Student Material
ENGLISH LANGUAGE	All About English Secondary 3	S3NT	Textbook	Pearson Education South Asia Pte Ltd	2012 - 2016	1E	19.95	Student Material
ENGLISH LANGUAGE	All About English Secondary 4	S4E,S5NA	Textbook	Pearson Education South Asia Pte Ltd	2013 - 2017	1E	18.40	Student Material
ENGLISH LANGUAGE	All About English Secondary 4	S4NA	Textbook	Pearson Education South Asia Pte Ltd	2013 - 2017	1E	18.40	Student Material
ENGLISH LANGUAGE	All About English Secondary 4	S4NT	Textbook	Pearson Education South Asia Pte Ltd	2013 - 2017	1E	18.40	Student Material
ENGLISH LANGUAGE	English Access: Learner's Book 1	S1NT	Textbook	Marshall Cavendish Education (formerly Panpac Education)	2010 - 2015		11.25	Student Material
ENGLISH LANGUAGE	English Access: Learner's Book 2	S2NT	Textbook	Marshall Cavendish Education (formerly Panpac Education)	2011 - 2015		16.45	Student Material
ENGLISH LANGUAGE	English Empowers: Learner's Book 1	S1E,S1NA	Textbook	Marshall Cavendish Education (formerly Panpac Education)	2010 - 2015		13.35	Student Material
ENGLISH LANGUAGE	English Empowers: Learner's Book 2	S2E	Textbook	Marshall Cavendish Education (formerly Panpac Education)	2011 - 2015		16.65	Student Material
ENGLISH LANGUAGE	English Empowers: Learner's Book 2	S2NA	Textbook	Marshall Cavendish Education (formerly Panpac Education)	2011 - 2015		16.65	Student Material
ENGLISH LANGUAGE	All About English Secondary 1	S1E	Teacher's Resource	Pearson Education South Asia Pte Ltd	2010 - 2015		85.00	Teacher Material
ENGLISH LANGUAGE	All About English Secondary 1	S1NA	Teacher's Resource	Pearson Education South Asia Pte Ltd	2010 - 2015		128.00	Teacher Material
ENGLISH LANGUAGE	All About English Secondary 1	S1NT	Teacher's Resource	Pearson Education South Asia Pte Ltd	2010 - 2015		227.45	Teacher Material
ENGLISH LANGUAGE	All About English Secondary 2	S2E	Teacher's Resource	Pearson Education South Asia Pte Ltd	2011 - 2015		148.00	Teacher Material
ENGLISH LANGUAGE	All About English Secondary 2	S2NA	Teacher's Resource	Pearson Education South Asia Pte Ltd	2011 - 2015		148.00	Teacher Material
ENGLISH LANGUAGE	All About English Secondary 2	S2NT	Teacher's Resource	Pearson Education South Asia Pte Ltd	2011 - 2015		148.00	Teacher Material
ENGLISH LANGUAGE	All About English Secondary 3	S3E	Teacher's Resource Package	Pearson Education South Asia Pte Ltd	2012 - 2016	1E	138.00	Teacher Material
ENGLISH LANGUAGE	All About English Secondary 3	S3NA	Teacher's Resource Package	Pearson Education South Asia Pte Ltd	2012 - 2016	1E	138.00	Teacher Material
ENGLISH LANGUAGE	All About English Secondary 3	S3NT	Teacher's Resource Package	Pearson Education South Asia Pte Ltd	2012 - 2016	1E	138.00	Teacher Material
ENGLISH LANGUAGE	All About English Secondary 4	S4E,S5NA	Teacher's Resource Package	Pearson Education South Asia Pte Ltd	2013 - 2017	1E	103.60	Teacher Material
ENGLISH LANGUAGE	All About English Secondary 4	S4NA	Teacher's Resource Package	Pearson Education South Asia Pte Ltd	2013 - 2017	1E	113.60	Teacher Material
ENGLISH LANGUAGE	All About English Secondary 4	S4NT	Teacher's Resource Package	Pearson Education South Asia Pte Ltd	2013 - 2017	1E	118.60	Teacher Material
ENGLISH LANGUAGE	English Access: Teacher's Resource 1	S1NT	Teacher's Resource	Marshall Cavendish Education (formerly Panpac Education)	2010 - 2015		33.30	Teacher Material
ENGLISH LANGUAGE	English Access: Teacher's Resource 2	S2NT	Teacher's Resource	Marshall Cavendish Education (formerly Panpac Education)	2011 - 2015		55.05	Teacher Material
ENGLISH LANGUAGE	English Empowers: Teacher's Resource 1	S1E	Teacher's Resource	Marshall Cavendish Education (formerly Panpac Education)	2010 - 2015		46.60	Teacher Material
ENGLISH LANGUAGE	English Empowers: Teacher's Resource 1	S1NA	Teacher's Resource	Marshall Cavendish Education (formerly Panpac Education)	2010 - 2015		46.60	Teacher Material
ENGLISH LANGUAGE	English Empowers: Teacher's Resource 2	S2E	Teacher's Resource	Marshall Cavendish Education (formerly Panpac Education)	2011 - 2015		55.05	Teacher Material
ENGLISH LANGUAGE	English Empowers: Teacher's Resource 2	S2NA	Teacher's Resource	Marshall Cavendish Education (formerly Panpac Education)	2011 - 2015		55.05	Teacher Material

第2節 童話や寓話等の教材

(1)特徴

学校現場での調査・研究の結果シンガポールの小学校の英語教育においては特に読解力の強化が重要であることがわかり、英語学習・読解力養成の戦略として初等教育の低学年から段階的に童話や寓話を従来の教科書に代わる教材として使用している。

授業の実施形態としては、教師と生徒が一体となって授業を進めており、教師は **Big book** と呼ばれる大きな教科書を使い、生徒全員に見せながら文法や文章構造を指導する。教師は生徒に質問を投げかけたり、生徒と本の内容について話し合ったりしながらコミュニケーション能力の向上を図る。また、生徒に教材で使用されている文章を実際に書かせることで記述力や文法力の向上も図る。

生徒は教師の全体説明の後に **Small Book** と呼ばれる教材を使って学習し、教師は生徒個々の理解度を見ながら、英語力の4技能（聞き、話す、読む、書く）の一体的な能力養成を図っている。



【Big book(題材：Owl Babies)を使用した授業の様子】

(2)内容

「英語学習、読解力養成の戦略」では、生徒が興味を持って英語学習に積極的に取り組むことが重要と考えられており、生徒が興味や親しみを持って英語学習に取り組むことができる内容となっている。例えば、よく利用されている「Owl Babies」（日本語タイトル名：よるのおるすばん）は家族愛をテーマにした題材に加え、黒地にあざやかな色の大きな文字が読みやすいだけでなく夜の物語の雰囲気をもよく伝えており、親しみやすい。「Ride On」はシンガポールのMRTを題材にしており、英語を学びながら日常生活についても学ぶようになっている。写真、イラスト、カラー紙面等が多用されており、生徒の学習意欲を引き出している。

(3)教材選定方法

教育省が選定・購入を行って各学校に配布する。教育省が作成するものもある。教材は基準に従って生徒が興味を持って積極的に読書に取り組めるような書籍が選ばれている。

第3節 教師が作成する教材

(1)特徴

2004年に教育政策として発表された「Teach Less, Learn More」（少なく教え、多く学ぶ）以降、学校教育においても創造性の涵養を重視する流れが強まり、教師自身が独自に教材を作成して授業で使用するケースが増えている。この背景としては、現在のように変化が激しい環境では、教科書の内容が時代にそぐわなくなってしまうたり、生徒の学習レベルによっては教科書の内容が難しかったり簡単すぎたりするため、状況変化に合わせたものが求められていることがある。

(2)内容

新聞記事やテレビ番組等を活用して教材作りが行われている。教材は学校毎に策定されており、各学校の英語担当部長を中心に英語教員が集まって作成し、学校長、副学校長の了承を得て使用されている。

学校間に授業内容の差が生じることについては、教育省は「英語教育シラバス 2010」の内容を踏まえた独自教材であれば問題ないとしており、むしろ自主教材を推奨する流れにある。教育格差の懸念については、教育省カリキュラム計画・開発課が各学校の成績を把握し、必要に応じて助言・修正を図ることとなっている。

今後も教育省認定教科書は重要な役割を果たし続けられると思われるが、同時に、教師の相違工夫によって時代に即した最新の教材作りが行われると思われる。

第5章 英語教員養成制度、英語教員研修制度

効果的な英語学習を進める上で教員の果たす役割は大きく、英語教育の推進を図る日本においても、英語教員研修については課題となっている。本章ではシンガポールの教員制度の概要を説明する。

第1節 教員養成機関としての 国立教育研修所 (National Institute of Education)

シンガポール唯一の教職員養成機関、ナンヤン工科大学 (NTU) の一機関である国立教育研修所 (NIE) は、教員養成のための専門教育やトレーニングを行っている。教員資格認定のコースは3つあり、①大学卒業者を対象にしたコース (1年間)、②GCE-A レベル試験等の合格者またはポリテクニクの卒業者を対象にしたコース (2年間または4年間)、③GCE-O レベル試験の合格者を対象に教員資格認定だけでなく芸術教育または科学教育の学士号取得が可能なコース (4年間) が設けられている。シンガポールの公立学校で勤務するためには、教職員はこの研究所で実施される研修プログラムを受講する必要がある。

NIE では、教育省、学校と相互に密接に連携して教員養成を行っている。21世紀の教師が備えるべき資質を価値観、技能、知識の3分野において規定し、これらの資質を高める指導が行われている。

【21世紀の教師が備えるべき資質】

(価値観1)	(価値観2)	(価値観3)
<ul style="list-style-type: none"> ・学習者を中心に考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師としてのアイデンティティの確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的職業、コミュニティへの参加
<ul style="list-style-type: none"> ・共感 ・子どもが学習する事への信頼 ・子どもの潜在力を献身的に育成する ・多様性の価値観 	<ul style="list-style-type: none"> ・高い基準を求める ・資質を高める ・学習を探究する ・改善に向けて努力する ・情熱 ・適用性、困難に遭遇した場面からの回復力 ・専門性 	<ul style="list-style-type: none"> ・共同学習、共同練習 ・助言者と助言を受ける関係を築く ・社会的責任、従事 ・責任感

技能	知識
<ul style="list-style-type: none"> ・思慮深い技能、思考する気質 ・教育学的技能 ・人材管理技能 ・自己管理技能 ・管理、経営技能 ・コミュニケーション技能 ・物事を促進する技能 ・技術技能 ・革新的、企業的技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己に関する知識 ・生徒に関する知識 ・コミュニティに関する知識 ・教科内容に関する知識 ・教育学に関する知識 ・教育政策に関する知識 ・カリキュラムに関する知識 ・多文化理解に関する知識 ・グローバル社会に関する知識

英語教員となる学生にはシラバスで規定される指導内容を踏まえた効果的な英語教授法が指導される。学内には講義内容を実践できる模擬授業用の教室が整備され、実際の授業を想定した実践的なトレーニングを積めるようになっており、教育現場を意識した指導が行われている。



【小学生に対する模擬授業用の教室の様子】



【書庫に配架された教材】

第2節 英語教員研修制度

教員研修制度として「国立英語研修所（ELIS）による研修制度」、「地域レベルでの研修制度」、「学校における育成制度」がある。

1 国立英語研修所（English Language Institute of Singapore）

(1)概要

国立英語研修所（ELIS）はシンガポールにおける英語学習・英語指導内容の向上を図るため、英語教師に対する総合的な研修を行っている。ELISはシンガポールの学生の効果的な英語コミュニケーション能力を強化するため、リー・クワンユー氏の主導で2011年に設立された。多言語社会における世界一流の英語研修所であることを目標とし、組織使命をシンガポールの学生が国際的な標準英語を身に付け、英語表現能力を高められるよう、シンガポールの学校における英語学習指導を推進すると規定している。主目的を「英語学習に関する豊富な専門知識を習得する」、「活気に満ちた英語学習コミュニティの成長を促進する」、「英語による効果的なコミュニケーション能力を伸ばす」、「国際的な事例調査により高度な専門知識を深める」、「英語力を高める上での関係機関等とのネットワークの構築」として運営されている。

(2)研修プログラム内容

ELISは教師の専門的な学習機関として、英語教授法の指導、英語以外の教科指導にお

ける英語使用法の指導、英語学習の高度化に向けた海外の英語教育に関する調査研究を行っている。

①英語科教員を対象とした研修プログラム

ELIS はシンガポールの全ての学校を研修対象にしており、研修指導相談を希望する学校に **Master Teacher** や英語教育学の専門家を派遣し研修を実施している。研修の実施にあたっては、学校全体としての指導能力向上を図るため、個々の教員に対する指導ではなく学校の英語教員で組織される英語部を対象にした研修を実施している。研修の実施にあたっては、各学校における英語指導の中心となる教科長や豊富な指導経験を持つ教員の参加を実施条件としている。

2015 年に用意されている研修プログラムを下記のとおり紹介する。

ア) 小学校教員対象研修プログラム

小学校英語教員を対象としたプログラムで、基礎となる 4 技能に関する研修の他、学習評価の方法に関するプログラムも用意されている。

プログラム名	最少参加人数	研修時間/1 回	研修回数
会話表現指導力向上研修	10 名以上	3 時間	4 回
筆記・表現 指導力向上研修	10 名以上	3 時間	5 回
文法指導力向上研修	10 名以上	3 時間	5 回
学習内容の向上に向けた学習 評価指導研修	10 名以上	3 時間	4 回
累計的評価指導研修	10 名以上	3 時間	6 回
読解力指導研修	10 名以上	3 時間	5 回

イ) 中学校教員対象研修プログラム

中学校英語教員を対象としたプログラムで、基礎となる 4 技能に関する研修の他、学習評価の方法に関するプログラムも用意されている。

プログラム名	最少参加人数	研修時間/1 回	研修回数
会話表現指導力向上研修①	10 名以上	3 時間	4 回
会話表現指導力向上研修②	10 名以上	3 時間	3 回
筆記指導力向上研修	10 名以上	3 時間	5 回
学習内容の向上に向けた学習 評価指導力向上研修	10 名以上	3 時間	5 回
読解力指導力向上研修	10 名以上	3 時間	5 回
文法指導力研修	10 名以上	3 時間	5 回
生徒の読書力向上に向けた指 導力向上研修	調整中	調整中	調整中

ウ) 研修終了後の継続的なサポートプログラム

専門知識を高める研修プログラム終了後も、研修内容を現場に応用する実践過程に関する相談に対して指導経験豊富な **Master Teacher** や教育学の専門家を派遣し助言や指導を行うサポートプログラムを実施している。**Master Teacher** や教育学の専門家は、授業内容の改善を図るため、教員の英語授業の指導方法を客観的に分析し改善点の助言を行っている。これらの事例は「**EL Classroom inquiry**」として、ホームページや冊子にまとめられており、同様の課題に直面した際の解決方法の参考資料として利用されている。

エ) 自主学習グループへのサポートプログラム

3名以上の同じ志を持ち情熱にあふれる教師が集まる共同研究グループに対して、指導経験豊富な **Master Teacher** や教育学の専門家を派遣し、助言や指導を行うサポートプログラムを実施している。研究テーマは自分達の関心のあるテーマを自由に設定でき、実施場所も学校や学校以外の場所で行うことができる。

オ) 経験豊富な **Lead Teacher** や **Senior Teacher** によるサポートプログラム

英語授業の指導方法を客観的に分析し授業内容の改善を図るため、**Lead Teacher** や **Senior Teacher** が授業内容を観察し、改善点を助言するサポートプログラムを実施している。教室指導を行った内容については、ホームページや冊子としてまとめられ、同じような課題を持った他の教師が参照できるように配慮されている。

カ) その他

小・中学校における英語指導方法に関するビデオがウェブサイトに掲載され、必要な時に見ることができる。また、ブログサイトを通じて英語指導方法に関する意見交換ができるサポートも行われている。

②英語科以外の教員を対象にした研修プログラム

ELIS では英語科以外の教員が授業を行う際の英語表現について研修を実施している。これは、英語による効果的なコミュニケーション能力の向上に向けた学校全体としての取組として推進されているもので、英語が共通の言語であるシンガポールにおいては、英語授業時に加え、その他の教科指導時にも教師は適切な英語表現で授業を行うことで生徒の理解を深めることができるため実施されているものである。研修プログラムは小・中学校を対象に **a** 科学、数学、社会学等の授業時に使用する英語に対する意識の涵養を図るプログラム、**b** 授業において深いレベルで生徒の理解力を深めるための高度なコミュニケーション力の涵養を図るプログラムがある。いずれも8時間に及ぶ研修を2日間実施される。

2 地域レベルの研修

地域における研修機会として、クラスター²としてゾーン分けされている域内における学校の教師間の交流機会があり、異なる学校の教師が互いの指導方法や経験の意見交換を通じて、効果的な英語教授方法等の情報を共有することで、学校の垣根を越えた優良な教授法を学ぶ場となっている。

3 学校レベルの研修

学校における育成制度として、学校長をトップに副校長、教科長を中心とした教師育成が行われ、より適切な教授法を身につける場となっている。学校における育成システムとして、各学校にはそれぞれ教科長が任命されており、教科長の下、指導経験豊富な **Senior Teacher** が比較的経験の少ない **Junior Teacher** の授業に立ち会い、改善点等を指摘、助言することで授業の改善に繋げている。外部のより専門的な助言が必要な場合は **ELIS** に相談し、助言を得て授業の改善に繋げている。

副校長の下に **School Staff Developer** が配置され、全教師に対してスキルアップのための講義情報などが提供されている。教師はスキルアップ向上のために必要と思われる講義を自ら選択する。また講義に参加した教師から講義内容のフィードバックを教師間で行うことにより、その内容を学校に定着させる努力を行っている。

² シンガポールの小学校、中学校の地域単位の分類区分で、北部、東部、南部、西部の4地域で30区分に分けられている。各クラスターは10～15校で構成されている。

おわりに

本稿においては、シンガポールの英語教育の内容を教育制度の概要、英語教育、英語教育シラバス、英語教科書、英語教員養成制度を通してみてきた。シンガポールの英語教育の特徴は、英語学習の目的を先進国の資本や科学技術を取り入れて経済発展を図ると共に国際競争力の優位性を確保することと明確にした上で、英語教育到達目標を設定し、その実現のために学習内容を規定し、適切な教材を選定し、優秀な英語教員を育成・研修するという英語教育を一体的に推進している点にある。

シンガポールで話される英語は、時にシングリッシュと呼ばれ、国際的な標準英語ではないと揶揄されることもある。シンガポール政府はこうした声を重く受け止め、国民が国際的な標準英語でコミュニケーションを取り、世界に向けて情報発信できる人材育成を進めている。こうした姿勢は、2011年に設置された国立英語研修所（ELIS）の設置にも見てとる事ができる。

ELIS はリー・クワンユー氏が、シンガポールの国際競争力を維持していくためには世界のビジネスや最新の科学技術の研究分野における国際的な標準言語を習得する必要があると認識し、シンガポールの生徒が国際的な標準英語を身に付けられる英語教育体制づくりのため設置した組織である。ELIS のスタッフは優秀な教師と英語学の専門家で構成され、教育省、国立教育研修所（NIE）、各学校と綿密に連携し、英語による効果的なコミュニケーション、情報発信を身に付ける方法を研修し、教育現場の英語教員に情報提供やサポートを行っている。英語を共通言語として位置づけ、より高い次元の英語能力を生徒に習得させようとするシンガポールのスタンスは今後も推進されていくと思われる。

一方、日本においても初等中等教育段階からグローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、「英語を用いて何ができるようになるか」という観点から、小学校中学年からの英語学習の開始、中学校における英語の授業は英語で行うことを基本として身近な事柄を中心にコミュニケーションを図れる能力の養成を推進していく過程にあり、特に、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に合わせてこの動きは今後も加速していくものと思われる。

新たな英語教育を推進する中で、新たな指導用教材等の開発、英語教員の英語力・指導力の養成等をすぐに軌道に乗せることには困難が伴うが、日本人の英語によるコミュニケーション能力をはじめ総合的な英語力の向上のための実質的な施策・取組みが展開されることを期待するとともに、本論文がそうした取組の一助となれば幸いである。

参考文献

1 書籍、報告書等

- 一般財団法人自治体国際化協会(2011年)「シンガポールの政策 分冊改訂版 教育政策編」
- Lee Kuan Yew(2011), *My Lifelong Challenge Singapore's Bilingual Journey*, Straits Times Press
- Lee Kuan Yew(2013), *THE WIT & WISDOM OF Lee Kuan Yew*, Editions Didier Millet
- 岩崎育夫(2013年)『物語 シンガポールの歴史』中公新書
- Sandra Segeram C.(2010), *All About English Textbook Secondary1 (Express/Normal(Academic))*, Pearson Education South Asia Pte Ltd
- English Language Institute Of Singapore (ELIS), *Professional Learning Opportunities@ELIS 2015*

2 ウェブサイト

- シンガポール教育省
(<http://www.moe.gov.sg/>)
- TOEFL iBT® Tests January 2013–December 2013 Test Data
(http://www.ets.org/s/toefl/pdf/94227_unlweb.pdf)
- グローバル化に対応した英語教育改革実施計画
(http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/12/_icsFiles/afieldfile/2013/12/17/1342458_01_1.pdf)
- 今後の英語教育の改善・充実方策について 報告(概要)～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/houkoku/attach/1352463.htm)
- 教育課程の編成に関する基礎的研究報告書 4 諸外国における教育課程の基準
(<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/Houkokusho-4.pdf>)
- 現行学習指導要領・生きる力 保護者用パンフレット(平成22年作成)(詳細版)
(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/pamphlet/_icsFiles/afieldfile/2011/07/26/1234786_1.pdf)
- NFER (2011). Review of the National Curriculum in England: Report on subject breadth in international jurisdictions. Slough: NFER
(<http://www.nfer.ac.uk/publications/91040/91040.pdf>)
- 2010 English Language (Primary and Secondary — Express / Normal (Academic)) Syllabus
(<http://www.moe.gov.sg/education/syllabuses/english-language-and-literature/files/english-primary-secondary-express-normal-academic.pdf>)

- Approved Textbook List
(<http://www.moe.gov.sg/approved-textbook-list/>)
- STELLAR
(<http://www.stellarliteracy.sg/>)
- NIE's journey from concept to realization
(https://www.nie.edu.sg/files/booklet_web.pdf)
- 国立英語研修所 (ELIS)
(<http://www.elis.moe.edu.sg/>)

3 写真

- 2010 English Language (Primary and Secondary – Express / Normal (Academic)) Syllabus
(<http://www.moe.gov.sg/education/syllabuses/english-language-and-literature/files/e>)
- クレアシンガポール事務所職員撮影のもの

【執筆】

財団法人自治体国際化協会 シンガポール事務所

所長補佐 仲田 一晃

【監修】

所長 足達 雅英

次長 岩井 昌也